

集 団 読 書 用 テ キ ス ト 一 覧

1980年代はじめ、「クラス読書会」や「集団読書」が取り組まれました。
 天草地区の各学校にもテキストや文庫本等が数種類あり、近隣の高校同士でも貸し借りが可能です。
 「朝の読書」や様々な講座等で集団的に本を読むときに、ご利用ください。

2016. 3. 1 天草地区高校図書館

番号	コミ	書 名	内 容	所蔵校 ID
1	あ	青いりんごのふるさと 畔柳二美著	北海道で生まれ育った姉妹のもとに、「ふたりで青いりんごをかじったね」という詩のような手紙が届く。差出人の名前はない。「りんごを一緒にかじった人」は、「健次さん」。でもその人は死んだという噂。あの世から手紙をよこしたのか・・・消印は岡山となっている。はるか遠くに療養しなければならなかったハンセン病患者と家族のお話。	171
2	あ	赤毛連盟 コナン・ドイル著	物語はイギリス紳士のシャーロックホームズが鋭い推理力で、事件を解決していく。「赤毛連盟」への入会は、悪党にとって、銀行破りのための抜け穴事始め。赤毛の質屋の主人にとっては、思いもかけぬもうけ口。前半は主人公やホームズ、読者をまごつかせるが、次の日には、緻密な実地観察、悪党ジョン・クレイらを待ち伏せる緊迫した空気、最後に親友ワトソンに謎解きをする場面。一切が計算されているのだろうかと思わせるおもしろさがある。	165 167
3	い	いのちの優しさ 高史明著	人間は“自分の目で見て自力で生きる”という知恵を身につけたことによって、本当の“いのち”を見失ってしまったのではないか。愛児の自死に直面した著者が、歎異抄を通して、いのちそのものの持つ力への目覚めを呼びかける、若い人たちと親への真摯なメッセージ。	163 167 172
4	い	伊豆の踊り子 川端康成著	旧制高校生の主人公が旅芸人の踊り子に寄せるほのかな感情を叙情的にうたいあげた青春の名作。旧制高等学校の学生である「私」は、旅の途中、旅芸人の一行に出会う。その中の美しい踊り子の清純な姿に心惹かれた私は、一行と天城から下田まで同行することになる。温泉の湯殿で裸身のまま無邪気に叫び続ける踊り子の姿をみて、私は「頭が拭われたように澄んだ気持ち」になる。旅芸人に対する好奇心も軽蔑も含まない気持ちは一行の胸にしみこみ、踊り子も可憐な思慕の情を寄せていく。別れの日、かたくなにおし黙って見送る別れた「私」は、船室で、快い甘さを伴った涙をポロポロと流す。	167 164 172
5	お	汚 点 井上ひさし著	作者自身の体験をもとに、書かれたと思われる。養護施設で暮らす兄のもとへ、ラーメン屋に住み込みで働く母と一緒に暮らしている弟からはがきが届く。そのはがきに「汚点（しみ）」がある。弟も自分のいる養護施設に入れて欲しいと願うが、自分自身の養護施設での暮らしも、いろいろ問題がある。	163 171 164 172
6	お	オモ二の歌 岩井好子著	48歳で初めて学校にいった在日朝鮮人オモ二が、苦難の半生と学ぶことの喜びを語る感動の記録。世界一の就学率をほこる日本にも、教育を受ける機会を逃した人々が全国に数万いる。その多くは在日朝鮮人、被差別部落の人たちである。夜間中学に集まる彼らの姿を描きながら、その中で最も典型的な在日朝鮮人オモ二の一生を聞き書きで追う。	163
7	お	オツベルと象 宮沢賢治著	欲ばりの地主・オツベルから白象を救おうと仲間の象たちがオツベルのところにおしよせます。	163
8	お	女は損か 松田道雄著	中学生の日常生活から生ずる男女の疑問を提示し、対話式で語る。	165 167 172
9	お	女へんの漢字 藤堂明保著	著者は、中国語学者・元東京大学教授。深夜テレビの人気コーナー書籍化。	173
10	か	貝の鈴 山口勇子著	広島のある島で夏休みをすごすみのり。その島に住むりつ子。ふたりは毎年友情を暖めあう。りつ子は美しい貝を近所のおじさんから預かっていた。この貝にはおじさんが経験した悲しい出来事にまつわる話があった。	167
11	か	喝采はアイラヴユー 黒柳徹子著	私はこれほど心のこもった喝采を見たことがなかった。国際ろう者演劇フェスティバルに参加した著者のエッセイ。	163

12	か	カナダ・エスキモー 本多勝一著	本多勝一氏の突撃ルポルタージュ「極限の民族」3部作の筆頭である。極北民族の在りし日の生活をあますところなく伝えたルポの傑作！今やここまでの生活をしているイヌイットもいまいが、約40年前には存在していたのだ。アザラシやセイウチを生肉のまま、好きな時間に各自が食べる習慣に驚き、なかでもカリブーが最高に美味で、本多氏も絶賛している	163 167
13	か	かもめのジョナサン リチャード・バック著	「飛ぶ歓び」「生きる歓び」を追い求め、自分の限界を突破しようとした、かもめのジョナサン。群れから追放された彼は、精神世界の重要さに気づき、見出した真実を仲間に伝える。しかし、ジョナサンが姿を消した後、残された弟子のかもめたちは、彼の神格化を始め、教えは形骸化していく……。新たに加えられた奇跡の最終章。帰ってきた伝説のかもめが自由への扉を開き、あなたを変える！	173
14	が	ガク物語 椎名誠著	山登りの好きな両親が山岳から岳から名付けた、シーナ家の長男・岳少年。坊主頭でプロレス技もスルドクきまり、ケンカはめっぽう強い。自分の小遣いで道具を揃え、身もココロもすっかり釣りに奪われてる元気な小学生。旅から帰って出会う息子の成長に目をみはり、悲喜こもごもの思いでそれを見つめる「おとう」…。これはショーンがまだチチを見棄てていない頃の美しい親子の物語。著者初の明るい私小説。	163 167
15	が	外套 ゴーゴリ著	ある日、鼻が顔から抜け出してひとり歩きを始めた…写実主義的筆致で描かれる奇妙きてれつなナンセンス譚『鼻』。運命と人に辱められる一人の貧しき下級官吏への限りなき憐憫の情に満ちた『外套』。	164
16	き	黄色い目の魚 佐藤多佳子著	海辺の高校で、同級生として二人は出会う。周囲と溶け合わずイラストレーターの叔父だけに心を許している村田みのり。絵を描くのが好きな木島悟は、美術の授業でデッサンして以来、気がつくともみのりの表情を追っている。友情でもなく恋愛でもない、名づけようのない強く真直ぐな想いが、二人の間に生まれて一。16歳というもどかしく切ない季節を、波音が浚ってゆく。青春小説の傑作。	171
17	き	キュリー婦人の慟哭 丸岡秀子著	「美しい人生には慟哭がなければならない」「いま私たちは与えられることに慣れすぎていないか」「二六歳、学問が恋人の彼女に愛を告げた青年キュリー」「妻として母として学者として、何一つ手を抜かなかった彼女」など、キュリー夫人の生き方を解説。	171
18	く	首飾り G・モーパッサン著	フランス戯曲。この結末は、悲劇？それとも、喜劇？—最後の1行に評価が割れた『首飾り』。フランス自然主義の巨星がのこした屈指の傑作。	167
19	く	黒猫 エドガー・ポー著	大きくて美しく、驚くほど利口な猫だった一。気立ての優しい青年が「酒癖という悪鬼」のために性格や気質をむしばまれ、かわいがっていた猫プルートの片目をえぐり、あげくの果て縄で首をしめ木につるしてしまう。その夜、家が火事になる。焼け跡のしっくい壁に焼き付いた猫の姿はやがておこるであろう不屈なものの象徴であった。青年は猫の呪いを受けて破滅していく。	164
20	く	くまもと文学紀行 熊本県高教研国語部会編	熊本に名文あり。高校生に熊本を描いた優れた文学作品を紹介することによって、自分自身が生活している郷土への親しみと理解を深めてもらおうと、県内の国語の先生方が厳選された名著、名作品48作品。平成17年発行の改訂版。	163
21	け	現在を観る目 中野孝次著	著者は、『清貧の思想』著者。現代に生きる人間の在り方を問う。	163 172
22	け	権威と権力 なだいなだ著	権威とか権力といわれると、われわれは国家とか裁判所とかを連想しがちだが、これらはそうした巨大な機構にのみ関わるものだろうか。人間の在るところいつもつきまとい、われわれの生活を根元から規定している権威と権力。著者は、日常身近な諸事象の分析からその正体をつきとめ、自律的人間の条件とは何かを問おうとする。	164
23	こ	公害と私たちの生きかた 田尻宗昭著	著者は海上保安庁巡視船の船長を経て、東京都の公害規制部長を勤める。環境保護に対しての思いや行政としての行動、天草の苓北火電での講演会の様子も収録。	163
24	こ	後世への最大遺物 内村鑑三著	われわれが後世に残しうべき最大のものは、「勇ましい高尚な生涯である」と説く内村鑑三講演集。我々が後世に残すものと考えるとき、何があるか。まず第一に金があり、事業がある。しかし、これは一種の天才であり、誰にでもできるというものではない。が、思想を残すということになるとたやすくできる。我々の内部に起こる思想を著述や教育によって後世の者へ託すことが出来る。「この世は歓喜の世の中であるという考えを我々の生涯に実行して、その生涯を世の中の贈り物として、世を去る」ことを「高尚な生涯」という。まじめに処世し、その人なりの生涯をもって生まれた主義のために生きることだというのである。	171

25	こ	こころ 夏目漱石著	恋人を得るために親友を裏切り、自殺へと追いこんだ。その過去の罪悪感に苦しみ、自らもまた死を選ぶ「先生」…。愛と偽善、誠実の意味を追究した傑作。	164
26	ご	午後の恐竜 星新一著	現代社会に突然出現した巨大な恐竜の群れ。蜃気楼か?集団幻覚か?それとも立体テレビの放映でも始まったのか?—地球の運命をシニカルに描く。	172
27	ご	強力伝 新田二郎著	白馬山頂に巨大な風景指示板を背負って登った強力小宮正作の生き様を描く。厳しい自然と力の限界に挑む作品。富士山の強力小宮正作は、50貫近い花崗岩の風景指示盤を白馬山頂に運び上げることになる。富士山測候所技師であり、彼に命を助けてもらった石田は、これを止めようと忠告するが・・・	165 167
28	ご	五体不満足 乙武洋匡著	「障害は不便です。だけど不幸ではありません」喧嘩にスポーツ、課外活動。大勢の仲間に見まわって、明るく楽しい“オトちゃん”の物語は、生きる勇気を与えてくれる。日本中にセンセーションを巻き起こした感動のベストセラー。	164
29	さ	坂道 壺井栄著	終戦して間もない頃、道子の家に父の親友の息子である堂本と名乗る青年がやって来た。父が満州で行方不明になった上に、堂本とともに日本に帰って来た母も故郷の大分で病死したことで、身寄りがなくなってしまったためである。道子の家も両親と道子の他に、道子の弟たちにあたる一夫と次男（つぐお）とタケ坊の3人の息子がいる。父は屑屋、母は内職で生計を立てているので余裕はないが、堂本を引き取る。父の屑屋を手伝う堂本には、夜間の大学に入って勉強したいという夢があった。1年後、念願の大学に入学することになった堂本は、さらに勉強に打ち込むために道子の家の近所にある部屋に引越しをすることにした。道子と一夫と次男とタケ坊は堂本とともに荷物を大八車に積み、堂本がどこかからもらって来た子犬のチビ公も連れて、新しく住む部屋に向かう。みんなで声を掛け合って進む上り坂の途中で、大きな屋敷の犬に吠えられ、道子の手を抜けたチビ公は屋敷の犬に噛まれてしまう。坂道で車を引く手を放せない堂本は、付近にいた飼い主と思われる老女に穏便に注意するが聞き入れようとしないため、怒鳴ってしまう。すると屋敷の主人が現れ、人だかりも出来るほどの騒ぎになる。そこにやって来た巡查は主人に事情を聞くが、主人は動物愛護週間であることを理由に堂本の言動を批判する。そして堂本にも事情を聞く巡查は、屑屋と名乗った堂本に非礼を詫げるように諭す。ところが一夫は、謝るのは堂本でなくて主人だとつぶやく。結局、老女が謝ったことで騒動は収まるが、屑屋でなく学生だと言った方がよかったのではと言う道子に、堂本は自分の家の動物しか愛護しない金持ちよりも屑屋の方が立派だと言う。上り坂が続く中、道子たちは再び声を掛け合いながら新しく住む部屋へ向かう。	171
30	さ	三四郎 夏目漱石著	熊本の高等学校を卒業して、東京の大学に入学した小川三四郎は、見る物聞く物の総てが目新しい世界の中で、自由気儘な都会の女性里見美禰子に会い、彼女に強く惹かれてゆく…。青春の一時期において誰もが経験する、学問、友情、恋愛への不安や戸惑いを、三四郎の恋愛から失恋に至る過程の中に描いて『それから』『門』に続く三部作の序曲をなす作品である。	164
31	さ	最後の殉教者 遠藤周作著	江戸末期の浦上四番崩れと呼ばれる迫害に材を取った、著者が拓いた独自の切支丹文学の先駆をなす名作。遠藤文学の軌跡を集約する必読の純文学短編集。「図体だけは象のように大きい」が体に似合わぬ臆病者で、何をさせても満足にできない不器用者、喜助。大勢の仲間とともに捕らえられた喜助は、拷問に耐えかねて、「おら、もう、もてん。ころびます。お役人さん。ころびます」と絶叫し、仲間たちを裏切って、信仰を放棄してしまう。	164 172
32	さ	さらば、悲しみの性 河野美代子著	「愛し合っていればセックスしてもいい」とは、現代の若者の常識。しかしその結果、10代の妊娠と人工中絶が増えているとしたら?産婦人科を受診した女性の姿を通して、著者は生命の大切さ、正しい避妊の必要性を訴えかけます。「もっと自分の体を知り、もっと自分の体を大切に!」豊かな性の確立をめざす中高生への熱いメッセージ。	164
33	さ	最後の一葉 O・ヘンリー著	「あの最後の一葉が落ちるとき、私も死ぬの」しかし、叩きつける風雨の中に最後のツタの葉は……。スーとジエンジーは共に芸術家を目指す若い画家の卵である。ある日肺炎に冒され、生きる気力をなくしたジエンジーはスーに向かい、死への予兆を語る。介抱するスーはこれを地階に住む老画家に話してしまう。翌朝、叩きつける風雨の中、なおもしがみつくツタの葉をみたジョンジーは、再び生への気力を取り戻す。風雨の中のツタの葉……。?！生涯の傑作、最後のツタの葉を描きあげる老画家の死。	165 167 172
34	し	少年 北杜夫著	人間の内的形成の原点としての少年時代の思考過程を綿密に、厳格に分析している作品。「青春」時代の葛藤が描かれている。	165 167
35	し	車輪の下 ヘッセ著	ひたむきな自然児であるだけに傷つきやすい少年ハンスは、周囲の人々の期待にこたえようとひたすら勉強にうちこみ、神学校の入学試験に通った。だが、そこでの生活は少年の心を踏みにじる規則ずくめなものだった。少年らしい反抗に駆りたてられた彼は、学校を去って見習い工として出なおそうとする…。子どもの心と生活とを自らの文学のふるさととするヘッセの代表的自伝小説である。	164 172

36	じ	人生への旅立ち 古谷綱武著	大岡昇平らと親交のあった著者による、学問への情熱、読書観、人生観。	163
37	じ	ジキル博士と ハイド氏 スティヴンスン著	どの人間にもある二重人格性を極端に持つヘンリー・ジキルは、自分の中にひそむ善悪の二面を完全に分離しようという幻想にとらわれる。科学者としての手腕により、性格も容貌もまったく異なる人物に変身できる薬を調合する。悪の化身として暴行、殺人などの悪事をつくすハイドは、別の薬を飲めばジキルに戻れるが、ついには戻れなくなってハイドの姿で自殺する。終章まで真実が明かされない小説の展開が読者をひきつける	164
38	じ	女生徒の進路 和田典子著	中学生から高校生、そして大学生、社会人へと少女たちが迎えようとしているこれからの十年は、人生のもっとも激しい移りかわりの時期です。この本では、学校、職業、恋愛、結婚、家庭など人生の節目ごとに女性がつきあたる具体的な問題にふれて、これからの時代にどう考えて生きていったらよいか、その方向を示します。（岩波書店HPより）	173
39	す	スローカーブを、 もう一球 山際淳司著	みなさんも一度は甲子園へ行ってみたいと思ったことがあるのではないのでしょうか。この本は県立高崎高校『タカタカ』の野球部員二十三名と、野球経験たった三か月の飯野先生を監督とし、だんだんと試合を勝ち進んでいく話です。果たして『タカタカ』は、甲子園へ行くことができるのでしょうか。	171 167
40	せ	セメント樽の中 の手紙 葉山嘉樹著	ダム建設現場で働く男がセメント樽の中から見つけたのは、セメント会社で働いているという女工からの手紙だった。そこに書かれていた悲痛な叫びとは…。	164 172
41	そ	ソクラテスの 弁明・クリトン プラトン著	自己の所信を力強く表明する法廷のソクラテスを描いた『ソクラテスの弁明』。不正な死刑の宣告を受けた後、国法を守り死を迎えようとするソクラテスと脱獄を勧める老友クリトンの対話からなる『クリトン』。	163
42	た	高安犬物語 戸川幸夫著	作者は、佐賀県出身、動物学者。高安犬とは、山形県東置賜郡高畠町高安地方を中心にふえた、中型の日本犬。番犬やクマ猟犬に多くつかわれている。この物語に出てくるチンは、その高安犬で、クマを追ってなん日も雪山をさまよう。高安犬のチンは、ポリップにかかって手術をすることになった。狩猟家の吉は、自分の肉体の一部を切り裂かれてでもいるかのよう、額に汗して、見守った。吉とチンとの交流は、まさに信頼と愛情の満ちていた。	165 167
43	た	高瀬舟 森鷗外著	島送りの罪人を乗せ夜の川を下る高瀬舟。しかし実の弟を殺したその男の顔は晴れやかに、月を仰ぐ目は輝いていた。なぜ…。精美な日本語で鷗外で描く人間の不可思議。これは安楽死をめぐる永遠の矛盾として現代人の中にも生きている。	167 172
44	ち	沈黙 村上春樹著	作品は「レキシントンの幽霊」あるいは「村上春樹全作品(5)」に掲載されているものと同じです。作者の写真、プロフィール、年譜、用語の注解がついています。	171
45	ち	中国の旅 本多勝一著	十五年戦争中、日本軍が中国で行ったさまざまな非人道的行為を、被害者たちの証言から再現した古典的ルポ。	164
46	ち	小さき者へ・ 生まれ出づる 悩み	病死した最愛の妻が残した小さき子らに、歴史の未来をたくそうとする慈愛に満ちた「小さき者へ」に「生れ出づる悩み」を併録する。	164
47	ち	ちいさなちいさ な王様 アクセル・ハッケ著	長きにわたって愛されてきた30万部突破のドイツのベストセラー小説。どうやら王様の世界では子ども時代が人生の終わりにあるらしい。僕らのところとは違って……。 おまえたちは、はじめにすべての可能性を与えられているのに、毎日、それが少しずつ奪われて縮んでいくのだ。それに、幼いうちは、おまえたちは、知っていることが少ないかわりに、想像の世界がやたら大きいだろう。どうしてランブに明かりがつくのか、テレビの画面に映像がうつるのか、理屈がわからないから、想像しなくてはならなかった。	164
48	と	トカトントン 太宰治著	この物語の主人公は、何かに夢中になると必ず「トカトントン」という金槌で釘を打つ音が聞こえ、と同時にそれまで没頭していたことが急に馬鹿らしくなり、投げ出してしまうという悩みを抱えた26才の青年。彼はその悩みを手紙で某作家に打ち明ける。	171

49	と	通りすぎた奴 眉村卓著	近未来都市の高度管理化社会を舞台に、ひとりの青年の自由な目的行動“旅”が繰り広げる現代SF。	167 172
50	と	友よ 詩集	高校時代に出会いたい詩17編が掲載。萩原朔太郎「青樹の梢をあおぎて」、茨木のり子「私のカメラ」、吉野弘「生命は」、中原中也「正午」、高村光太郎「ぼろぼろな駝鳥」、谷川俊太郎「若者たちの悲歌」など。	163 172
51	と	読書力 齋藤孝著	本を読むことの意味は何？ 案外答えにくい問いに「読書によって〇〇の力がつく」という形で考え、コミュニケーション力、人間理解力との関わりを示します。	163
52	な	夏の花 原民喜著	1945年8月6日、人類史上初の原爆投下に広島は死体で埋まり、傷ついた人々のうめき声で満ちた。自らも被爆した詩人・原民喜はこの人間存在の凌辱ともいえる凄惨な地獄絵に直面し、「このことを書きのこさねばならない」と固く決意する。	163 164
53	な	夏の花 原民喜著	1945年8月6日、人類史上初の原爆投下に広島は死体で埋まり、傷ついた人々のうめき声で満ちた。自らも被爆した詩人・原民喜はこの人間存在の凌辱ともいえる凄惨な地獄絵に直面し、「このことを書きのこさねばならない」と固く決意する。	163 164 172
54	に	日本と日本人 貝塚茂樹著	我が国が中国文化の影響を受け、独自の文化を築いたことを例を引いて説く文化論。	165
55	の	野菊の墓 伊藤佐千夫著	政夫と民子は仲の良いところ同士だが、政夫が十五、民子が十七の頃には、互いの心に清純な恋が芽生えていた。しかし民子が年上であるために、ふたりの思いは遂げられず、政夫は町の中学へ、民子は強いられ嫁いでいく。数年後、帰省した政夫は、愛しい人が自分の写真と手紙を胸に死んでいったと知る。野菊繁る墓前にくずおれる政夫……。涙なしには読めない「野菊の墓」。	164 172
56	の	野火 大岡昇平著	敗北が決定的となったフィリピン戦線で結核に冒され、わずか数本の芋を渡されて本隊を追放された田村一等兵。野火の燃えひろがる原野を彷徨う田村は、極度の飢えに襲われ、自分の血を吸った蛭まで食べたあげく、友軍の屍体に目を向ける……。平凡な一人の中年男の異常な戦争体験をもとにして、彼がなぜ人肉食食に踏み切れなかったかをたどる戦争文学の代表的名作である。	164
57	は	走れメロス 太宰治著	主人公メロスの心理描写を通して、人間の心の葛藤を描く。ディオニス王の暴君に怒ったメロスは、捕らえられ、処刑されることになる。妹のために3日の猶予を請うたメロスは親友セリヌンティウスを身代わりに預け、10里の道を走り、妹を結婚させると信義のため再び王のもとへと急ぐ。濁流を泳ぎ、山賊を倒すが力尽き「不貞腐れた」心になる。しかし、泉の水に力を得、ついに磔台の上の友の足にかじりつく。互いに一度ずつ、抱いた悪夢を告白した親友二人は、音高く殴り合い、抱きあう。「信実とは決して空虚な妄想ではなかった」ことを悟った王は、仲間に入れてくれるよう頼むのであった。	164
58	は	はつ恋 ツルゲーネフ著	16歳の少年ウラジーミルは、年上の公爵令嬢ジナイダに、一目で魅せられる。初めての恋にとまどいながらも、思いは燃え上がる。しかしある日、彼女が恋に落ちたことを知る。だが、いったい誰に？初恋の甘く切ないときめきが、主人公の回想で綴られる。作者自身がかつとも愛した傑作。	164
59	は	鼻 芥川龍之介著	京の都が、天災や飢饉でさびれすさんでいた頃の話。荒れはてた羅生門に運びこまれた死人の髪の毛を、一本一本とひきぬいている老婆を目撃した男が、生きのびる道を見つける『羅生門』。あごの下までぶらさがる、見苦しいほど立派な鼻をもつ僧侶が、何とか短くしようと悪戦苦闘する『鼻』。ほかに、怖い怖い『芋粥』など、ブラック・ユーモアあふれる作品6編を収録。	164 172
60	は	母の思い出 河盛好蔵著	フランス文学者によるエッセイ。	172
61	は	母は枯れ葉剤を浴びた 中村梧郎著	ベトナム戦争時の米軍による枯葉剤作戦、その枯葉剤が含む猛毒ダイオキシンは、ベトナムの兵士・民衆はもとより米韓の兵士にも今なお深刻な被害を与えている。そしてダイオキシン汚染は戦争の傷痕のみならず、現代の環境破壊として日本でも他人事ではない。国際的報道写真家が旧版刊行後二十余年の取材で世に問う渾身の一冊。作者は、報道写真家。1940年生まれ。1976年からベトナムで枯葉剤による被害の取材を開始。さらに米国、韓国、日本でもダイオキシン問題取材。日本ジャーナリスト会議特別賞を受賞。	172

62	ぱ	パニック・裸の王様 開高健著	『パニック』：大量繁殖したネズミの処置を通して、保身に汲々とする役人の無能と愚かさを痛烈に風刺した作品。 『裸の王様』：急速に組織化されつつあった戦後社会における個人の重みを問われている。満たされない家庭生活と学校生活で萎縮してしまった少年太郎の気持ちを解き放つべく、＜僕＞は努力する。	173
63	ひ	瀕死の琵琶湖 立松和平著	大量に流れ込む生活排水が琵琶湖を汚染している。小さな魚を食いつくすブラックバスももとは人間の身勝手で放流されたものである。その目で見、そして感じた琵琶湖の現状を行動派作家が独特の語り口で語る。	171
64	ぼ	坊ちゃん 夏目漱石著	松山中学在任当時の体験を背景とした初期の代表作。物理学校を卒業後ただちに四国の中学に数学教師として赴任した直情径行の青年“坊ちゃん”が、周囲の愚劣、無気力などに反撥し、職をなげうって東京に帰る。主人公の反俗精神に貫かれた奔放な行動は、滑稽と人情の巧みな交錯となって、漱石の作品中最も広く愛読されている。近代小説に勧善懲悪の主題を復活させた快作である。	164
65	ま	まだ、まにあうのなら 甘蔗珠恵子著	目をつぶらないで!みんなが気づけば「まだ、まにあう」チェルノブイリ事故から20年。核汚染の危険は高まるばかり…。それでもあきらめない女性の、心を打つメッセージ。	167
66	み	見つめられる日本 吉田ルイ子著	ケネディやキング牧師暗殺にも遭遇したフォトジャーナリスト。国際社会の中で、私たち日本人は何をしなければならぬか。講演録を修正した作品。	163
67	め	目 灰谷健次郎著	インドネシア郊外で出会った少年をぼくは写真に何枚も何枚も写しました。少年はぼくに、フィルムが入っていないおもちゃの汚れたカメラを見せました。どうやら、少年はそのおもちゃのカメラにフィルムを入れてくれ、といっているようでした。どうしよう、ぼくは唇をかみました。	163 172
68	も	森を愛さぬ日本人 CWニコル著	木が、次々に切り倒され、森は人間の手によって破壊されていく。人が自然とともに生きる道はあるのだろうか。日本を愛し、黒姫に住むウェールズ人C. W. ニコルが森、そして母なる木々への思いを語る。	163
69	や	屋根の上のサワン 井伏鱒二著	サワンよ、月明の空を、高く楽しく飛べよ。沼池の岸で見つけた傷ついた一羽の雁。サワンという名前をつけ、散歩に連れて出かけたが…。独得のユーモアとペーソスに溢れた作品。	172
70	ゆ	友情 武者小路実篤著	主人公野島とその親友大宮の友情と恋愛―青春時代のあらゆる魂の問題がこの2つのテーマをめぐる展開されるこの作品は、武者小路実篤（1885―1976）の数多い作品の中でも、とりわけ多くの若い読者に愛読されてきた、身につまされる思いで読み進んだ経験のある読者も多いであろう永遠の青春小説。	164
71	ゆ	夕鶴 木下順二著	矢を射られ苦しんでいたところを助けてくれた与ひょうの純朴な愛にむくいるために女人に化身して与ひょうの嫁となった鶴のつうは、夫が欲に目がくらみ始めるとともに、話す言葉も理解できなくなって、元の鶴の姿に戻り飛び去ってしまう。幻想的な民話劇『夕鶴』のほか『彦市ばなし』など。	164
72	ら	落城・足摺岬 田宮虎彦著	明治維新前夜、徳川譜代の小藩黒管藩は、押し寄せる万余の官軍を相手に絶望的な抗戦を続け、十歳にみたぬ幼児までが封建倫理に殉じて絶滅する。絶対忠義という至上観念が無残な破滅を迎える顛末を描いた『落城』。足摺岬で死のうと思った「私」は一人の老巡礼の姿に心洗われる。昭和10年前後の暗い時代における作者の学生生活に取材した『足摺岬』。	164 172
73	り	りゅうりえんれん物語 茨木のり子著	1958年2月、雪に埋もれた北海道の山奥で、穴ごもりをしていた男がみつかる。中国人の劉連仁。日中戦争の末期、日本政府による中国人の強制連行により、日本にきた劉連仁の生涯のことを書いた長編の詩。	163 164
74	ろ	老人と海 ヘミングウェイ著	キューバの老漁夫サンチャゴは、長い不漁にもめげず、小舟に乗り、たった一人で出漁する。残りわずかな餌に想像を絶する巨大なカジキマグロがかかった。4日にわたる死闘ののち老人は勝ったが、帰途サメに襲われ、舟にくくりつけた獲物はみるみる食いちぎられてゆく……。徹底した外面描写を用い、大魚を相手に雄々しく闘う老人の姿を通して自然の厳粛さと人間の勇気を謳う名作。	173

※内容については、アマゾン・ウィキペディア・本屋全国学校図書館協議会サイトを利用しました。
※資料は、文庫本や集団読書用テキストで、小一時間で読めるものがほとんどです。